群教セ	E02 - 02
	平15.214集

社会的事象を関連付けて追究できる子供を育てる指導の工夫

――資料を効果的に活用した新聞作りを通して――

特別研修員　　磯貝 博昭　（安中市立東横野小学校）

Ⅰ　主題設定の理由

急激な世の中の変化が予想される社会において、国際社会に生きる日本人の育成を目指し、子供たちに今後の社会の変化に対応しながら、主体的・創造的に生きることができる資質や能力を育てることが求められている。そこで、社会科の学習においては、「自ら調べて考える力」を育てるために、これまでの網羅的で知識偏重の学習ではなく、学び方や調べ方を身に付ける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する必要がある。そのために、子供一人一人が観察、調査、体験、表現などの具体的な活動を通して、社会的事象の特色や相互の関連性などについて考えたり、自分の意見を述べたりする授業への改善が求められている。

しかし、子供は単に目の前の社会的事象を見るだけにとどまり、事象の意味していることを見出す力や調べたことから深く考える力は身に付いていない。また、身に付けた資質・能力から他の対象や事例に応用したり発展したりすることが難しい。さらには社会的事象の特色や関連性について考え、既習の学習や自分の生活体験を通して考えることが苦手である。これらは、調べたことをそのまま書き写すだけであったり、教師や友達の考えをそのまま写したりする姿に現れている。今までの授業が、子供が学んできた事象のとらえ方を、生活と関連付けずに簡単に感想をまとめる程度のものであり、考えを深く追究するための工夫が少なかったからであると考える。

これまで、考えを追究する学習として、新聞作りの活動を取り入れた単元もあり、子供たちは意欲的に取り組んでいた。そこでは、調べ学習から明らかになったことを、新聞にまとめることで「自分から課題について調べよう」という意識をもたせることができた。そこで、何度も練り直した自分の言葉で表した考えを取り入れる新聞作りの活動を行えば、子供が意欲をもって資料を集め、それを効果的に活用し、自分の身の周りにある社会的事象について関連付けて考え、その内容を追究することができるであろうと考えた。

一般的に、新聞は、読み手のことを考えて作成する必要がある。「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どうした」という内容を明確にし、記事の内容をわかりやすい見出しで表すことなどが大切である。こうしたことに留意させるとともに、社会科における新聞作りにおいては、様々な事象どうしを比べて関連付けて考えさせ、理解が深まるようにしたいと考える。具体的には、事象相互の関連を考えさせるため、子供の発達段階をふまえて、必要とされる資料を複数選択する。そして、それらに書かれている意味のわからない語句を調べ、意味をよく理解し、それらの資料を見比べることで、共通点や相違点を分析できるようにする。さらには、分析の後、考えた結果を自分の意見を交えて文章としてまとめるという活動を行う。こうした新聞作りの一連の活動を行うことで、社会的事象を関連付けて自分の考えを追究できるであろうと考える。

以上のように、各資料の共通点や相違点を分析し、自分の意見を交えた新聞作りの活動を行えば、社会的事象を関連付けて追究する子供を育てることができるだろうと考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらい

問題解決的な学習の過程において、複数の資料を調べ、比較･吟味し、自分の考えを整理するという、資料を効果的に活用した新聞作りを行えば、社会的事象を関連付けて追究することに有効であることを、実践を通して明らかにする。

Ⅲ　研究の見通し

1　つかむ過程で、必要な複数の資料を収集し、読み取ったことを新聞の同テーマのグループ内で伝え合う活動を取り入れれば、他者の意見を参考に自分の読み取った内容を理解することができるであろう。

2　深める過程で、新聞記事としての分析をするため、理解した資料の内容を比較、吟味、整理する活動を取り入れれば、社会的事象から自分の意見を考えることができるであろう。

3　まとめる過程で、資料から読み取った内容と自分の考えを新聞の異テーマのグループ内で発表する活動を取り入れれば、社会的事象を関連付けて追究することができるであろう。

Ⅳ　研究の内容と方法

1　研究の内容

(1)　社会的事象を関連付けて追究できるとは

「社会的事象」とは、自然に起こるものではなく、人間の何らかの活動がきっかけとなって起こるできごとであると考える。

関連付けて追究できるとは、ものごとを順序立てて考えていく思考力や地域を見る視点などを総合的に身に付けるために、観察や資料の活用等を通して調べた社会的事象の内容を一度具体化し理解する。その理解した結果を分析し、自分の意見や考えを練り直すことができることである。それには、子供たちに、まず調べた事象からの言葉や数字としての事実を丹念に把握させ、読み取った内容をはっきりさせるようにしたい。

(2)　資料を効果的に活用した新聞作りについて

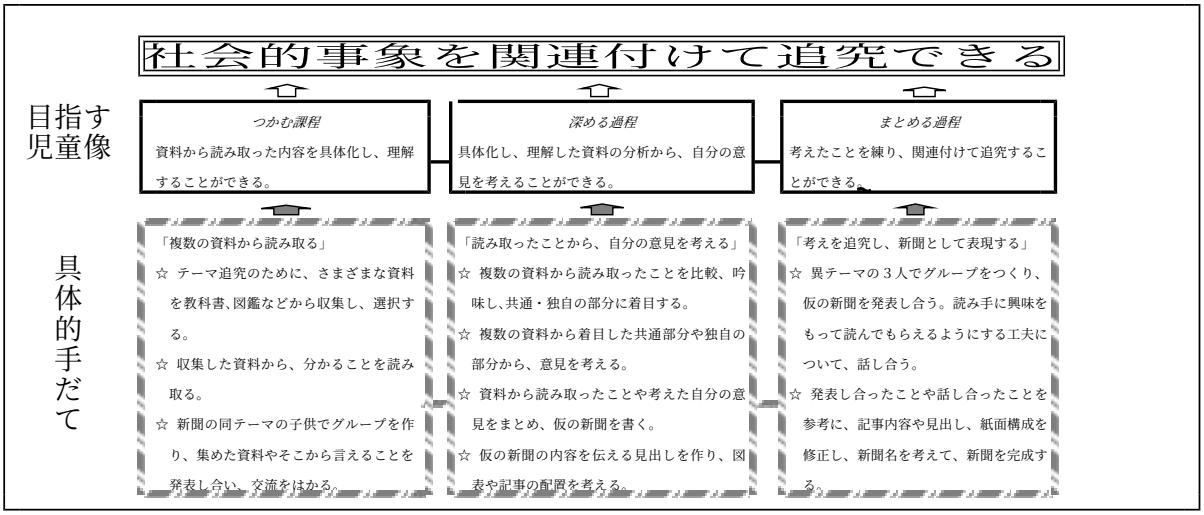
「資料を効果的に活用する」とは、複数の統計資料の内容を読み取り、どんなことが共通部分であり、どんなことが独自の部分なのかを整理し、さらには、「なぜそういうことが言えるようになったのか」「なぜ、こういった変化が起きたのか」といった理由を推測しながら、自分の意見や考えとして整理することである。具体的には、共通部分や独自の部分を色を変えた大きな付箋に書き表し、大きな台紙の上に貼り付け、その付箋から推測されることを矢印でつないで書き足していき、台紙の上に自分の思考の過程が残るようにして、自分の意見や考えをまとめる。

「社会科における新聞作りの活動」とは、社会的事象を観察・調査したり、地図、統計などの各種の資料を効果的に活用し、その事象に関わる様々な人々の立場に立って考え、分かったことや自分の意見を文章・図表などで新聞という紙面に表現することである。 新聞作りの意義としては、次の①から⑥があると考える。

①　記事を書く上での適切な資料を選ぶ力を育成できる。
②　複数の資料をつき合わせて、共通する重要事項や相違点に気付く力を育成できる。
③　気付いたことから、事象と事象の関連について、自分の考えを整理する力を育成できる。

④　調べた内容と同じような社会的事象が、既習事項にあったかを確認する力を育成できる。
⑤　記事や作成した図表・写真などを効果的に紙面に配置し、わかりやすく伝える紙面を構成する力を育成できる。
⑥　記事の内容について、口頭で発表する力を育成できる。
このように新聞作りを通して、問題解決的な学習において、社会的事象を関連付けて追究する力を育てることができると考える。

研究の基本構想図



2　研究の方法

研究の見通しに基づき、以下の計画で授業実践を行い検証する。

(1)授業実践計画と検証計画

対象	安中市立東横野小学校５年１組(25 名)	小単元名	「工業地域と工業生産」
実践期間	平成 15 年 10 月 15 日～ 11 月 19 日(全 13 時間計画)		
検証項目	検　証　の　視　点		検 証 の 方 法
見通し１	つかむ過程において、自分の新聞テーマに関わる必要な複数の資料を収集し、ワークシート上に整理し、そこから自分で読み取ったことを同テーマのグループ内で伝え合う活動を取り入れたことは、他の子供の意見を参考に自分の読み取ったことを理解するために有効であったか。		・観察　・原稿 ・チェックカード ・ワークシート
見通し２	深める過程において、新聞記事内に表す自分の意見として各資料から読み取り、理解したことからさらに「どんなことが考えられるのか」といったことを分析をするために、資料から読み取ったことをまとめた複数のワークシートを貼り付けた台紙上で、各資料の内容を比較・吟味・整理するという活動を取り入れたことは、社会的事象から自分の意見を考えるために有効であったか。		・観察　・ビデオ ・ワークシートを貼り付けた台紙 ・チェックカード
見通し３	まとめる過程において、資料から読み取った内容と自分の考えを載せた仮の新聞を、新聞の異テーマのグループ内で発表する活動を取り入れたことは、記事の内容が他の子供に伝わりやすい新聞作りを工夫しながら、社会的事象を関連付けて追究する子供を育てるために有効であったか。		・観察 ・仮の新聞 ・新聞 ・チェックカード

(2)抽出児童について

A 子	必要な資料を選び出し、社会的事象個々の意味や役割を読み取ることはできるが、そこから自分の考えを整理した文章としてまとめることには、習熟していない。台紙上に推測した考えをたくさん書くように助言することを通し、資料内容の吟味が徹底されるように働きかけ、自分の考えのまとめ方を学び、主体的に表現できるようにしたい。
B 男	必要な資料を選び出すことはできるが、他の資料と関連付けて考えることが十分でない。調べたことに対し、自分の考えをまとめて表現したりすることも苦手である。意図的に適切な資料を選択できる場を用意したり、自分の新聞テーマのキーワードを考えさせたりするように助言し、資料の共通部分や独自の部分を吟味させ、意欲をもって新聞づくりに取り組めるようにしたい。

Ⅴ　研究の展開

1　単元・題材等の考察と目標、評価規準

単元の考察	本単元は、学習指導要領の内容（２）にあたり、日本の工業の盛んな地域の様子について、資料を収集したり活用したりしながら調べ、それぞれの地域の特色や地域の発展の関連性などを考えることができる。本単元を学習することを通して、日本の多くの工業地域が海沿いに発展してきた理由として、原料の確保や製品の輸出と深く関わってきたこと、工場の規模によってその生産性に大きく違いがあらわれていること、大工場を支える中小工場が独自の専門技術を持って活躍していることなどに気づかせることができる。また、様々な工業製品が国民生活を支え、その生産を支える人々の努力についても気づかせることができる。これらのことから、日本の工業の現状について、興味深く調べ学習をすすめることができると考え、この単元を設定した。	
単元の目標	○我が国で生産されている工業製品の種類やそれらを生産する工場が集まっている主な工業地域の分布などについて調べ、現状や特色をとらえることができる。 ○我が国の工業の現状や特色について、分布図や統計資料を活用してとらえ、新聞の中でわかりやすく表現し、発表することができる。	
評価規準	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況
	社会的事象への関心・意欲・態度	
	◎工業の盛んな地域について関心をもち、工業の盛んなわけを様々な視点から調べようとする。【観察・チェックカード】 ◎読み手にわかりやすい新聞づくりをすすめようとする。【観察・仮の新聞・新聞】	○工業の盛んな地域について関心をもち、その地域について調べようとする。 ○自分から、新聞づくりをすすめようとしている。
	社会的な思考・判断	
	◎工業地域が海岸沿いに多いわけを、原料の確保、製品の輸出と結び付けて考えたり、重工業の発展をその生産性の高さから考えたり、工場の規模による生産性の違いや専門技術をもっている中小工場の活躍が生じるわけを考えたりすることができる。【観察・ワークシート・付箋・台紙・ビデオ・仮の新聞・新聞】	○工業地域が海岸沿いに多いわけを考えようとしたり、軽工業が衰退し、重工業が発展したわけを考えようとしたり、中小工場が活躍できる理由を考えようとしている。
	資料活用の技能・表現	
	◎我が国の工業の特色について、分布図、グラフなどの資料を読み取り、白地図などに見やすいように工夫して表現することができる。　【ワークシート・白地図・チェックカード】	○我が国の工業の特色について、分布図やグラフなどの資料を読み取り、白地図などに表現することができる。
	社会的事象についての知識・理解	
	◎盛んな工業の種類や工業地域の分布など、我が国の工業の特色について、事実相互を関連付けて理解し、説明することができる。【観察・新聞・ワークシート】	○盛んな工業の種類や工業地域の分布など、我が国の工業の特色について理解する。

2　指導計画（全13時間）　詳細については、資料編に掲載。

過程	時間	主な学習活動	学習形態	評価項目・評価方法
気づく・見通す	2	○日本の工業のさかんな地域やそこでの工業の種類、特色ある中小工場の存在について概観し、日本の工業について調べる視点を持つ。	一斉	○工業地帯・地域の名前と位置を自ら確認できる。【観察】
		○自分が興味をもった社会的事象から、新聞のテーマを３種類に分けて設定する。テーマは A 太平洋ベルト　B 日本の工業の変化　C 大工場と中小工場 の三つ。	個人	○自分の新聞のテーマを設定できる。【観察・チェックカード】
つかむ	4	○自分の設定したテーマについて新聞づくりをするため、「学び方ガイド(1)・(2)」を活用し、調べ学習のもととなる複数の資料を収集する。 ○収集した資料から、読み取れることを整理する。また、それぞれの資料中の意味のわからない語句を調べる。	個人	○資料を教科書や資料集から選ぶことができる。【観察・チェックカード】 ○資料から読み取ることができる。【観察・ワークシート】
		○同じテーマの子供同士で、資料から読み取ったことを発表し合い、交流し合う。	グループ	○発表を参考に、資料から読み取れることを整理できる。【観察・ワークシート・チェックカード】
深める	4	○調べた複数の資料を見比べ、それぞれの共通部分と独自の部分を調べ、蛍光ペンを使って色分けをした下線を引く。 ○複数の資料から言えることの共通部分を読み取り、なぜそういう事象が言えるようになったかを「学び方ガイド(３)」を参考に考える。 ○それぞれの新聞のテーマについて、資料から読み取れることの共通点として言えること、そういう事象になったと考えられる理由は、以下の通りである。 ●…資料と資料からの共通部分。 ◇…共通部分から考えられること、理由。 ★…その他に気づいてほしいこと。 A 太平洋ベルト ●太平洋ベルトには、人口・工業施設・交通網が集まっている。	個人	○複数の資料から共通している部分と資料独自の部分に弁別できる。【観察・ワークシート】 ○教師の発表を聞いて、複数の資料の共通部分を文章にまとめることができる。【観察・付箋・ビデオ】 ○付箋に書かれた資料どうしの共通の部分について、「なぜそう言えるのか」、あるいは「その事象から言えることは何か」を推測し、自分の新聞のテーマに関する自分の考えをまとめることができる。

深める		◇太平洋側の海沿いに工業が発達しているのは、外国から原材料や燃料を船で運んでくるのに便利だし、工場でできた製品を輸出するのに便利だから。 ◇海沿いは埋め立て地により、住宅や工業施設が立つ敷地が手に入りやすい。 ★工場が立つ条件の一つとして、国内の交通輸送が便利なところ、その工場で働く労働者が多い都市が近いことである。 B 日本の工業の変化 ●戦前から、戦後のすぐは日本は軽工業が中心だったが、やがて機械工業を主とした重工業中心へと変わっていった。 ◇日本の工業は、戦前・戦後直後から高度経済成長期に時代が移る中で、貿易で国を豊かにするために、より高く売れる製品を作るようになった。 ★日本は元々原料は乏しく、それを輸入することで加工貿易を行ってきた。 ★労働者の数が減ってきているのは、現在の日本の不況が原因だと思われる。 C 大工場と中小工場 ●大工場よりも中小工場は、数や働いている人数は多い。 ●中小工場よりも大工場のほうが、生産額や従業員への賃金は多い。 ◇中小工場には、他にはない独自で精密な専門技術を駆使しながら活躍している工場が多い。大工場を支えているのは、中小工場である。 ★たくさん人が働いていて、設備もよい大工場のほうが利益は上がる。 ○新聞のテーマに対する自分の考えを記事として文章で表す。 ○できあがった記事と資料を貼り付けて、仮の新聞を作成する。		【観察･付箋・台紙・ビデオ】 ○資料から読み取ったことと考えたことを分けて、記事を書くとができる。【観察･ワークシート】 ○新聞名・見出し・紙面構成を考えて、仮の新聞を作ることができる。【仮の新聞】
まとめる	2	○できあがった仮の新聞をもとに、異なる新聞テーマの３人で発表できるように準備する。	個人	○資料からの事実と自分で考えたことを意識して、発表の準備することができる。 【観察･発表用原稿】
		○異テーマの子供同士で、お互いの新聞を読み合ったり、発表し合ったりすることで、本単元での知識の共有化を図る。また、他の子供の新聞の紙面構成や見出し等を参考にする。	グループ	○友達の新聞の良さに気づき、自分の新聞に取り入れようと意識できる。 【発表・観察･チェックカード】
	1	○他者の新聞を参考に、自分の新聞の記事や図表、見出し、紙面構成をもう一度考え、修正して、新聞を完成する。	個人	○記事内容や見出し、紙面構成を再考し、新聞を完成することができる。 【観察・新聞】

＊「学び方ガイド」とは、新聞作りを進めていく上での、資料の収集の仕方、比較・吟味の仕方や考えのまとめ方等を全４枚で具体例に即して示したもの。詳細は、資料編に掲載。

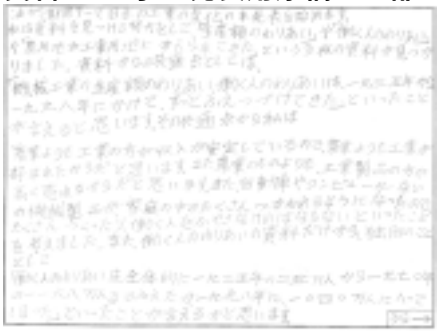
Ⅵ　研究の結果と考察

１　自分の新聞テーマに関わる複数の資料を収集し、ワークシート上に整理し、そこから自分で読み取ったことを同テーマのグループ内で伝え合う活動を取り入れたことは、他の子供の意見を参考に自分の読み取ったことを理解するために有効であったか

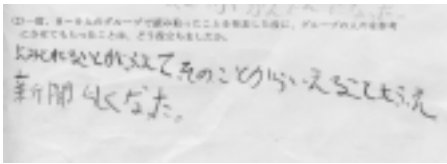
各自が設定した新聞テーマの人数の内訳は、「太平洋ベルト」が８名、「日本の工業の変化」が８名、「大工場と中小工場」が９名であった。まず、それぞれが「学び方ガイド(1)」をもとに、必要な統計資料を収集した。“これは”、と思う資料が見つかったところで、それらをコピーし、ワークシートに貼り付けた。そして、資料上に書かれた「市街地」「せんい」「化学」等の難しい語句の意味を調べた。その後、各資料から読み取れることを、ワークシート上に箇条書きでまとめた。なかなか資料が見つからなかった子供も、最後には図書司書の適切な助言等で、複数の資料を手に入れることができた。そして、一通りワークシートに書き出した後、同テーマ（８～９人）で資料から読み取ったことを発表する場を設けた。その結果、三つしか資料が見つからなかった子供、資料から十分に読み取れなかった子供も、他の子供の発表を参考にして、ワークシート上に読み取れることをまとめることができた。

Ａ子はテーマを「日本の工業の変化」にした。まず事前に配られた「学び方ガイド(1)」をじっくり読んできたので、必要な資料を教科書から二つ、もう一つを図書室の図鑑から見付けることができた。ワークシートに資料を添付後、三つの資料から「生産額の割合の変化では、軽

資料１　A子の発表用原稿の一部



資料２　B男のチェックカード



工業中心から重工業中心へと変化した」等の合計 13 の事象をまとめることができた。Ａ子の同グループの者は、Ａ子の読み取ったことを参考にする者が多かったことが観察からも分かった。また、Ａ子は発表のために、資料１のように非常に詳細な発表用の原稿を作った。この活動を通して、Ａ子は自分の読み取ったことをより具体的に理解することができたと考えられる。

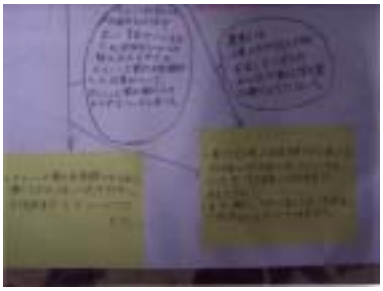
Ｂ男はテーマを「大工場と中小工場」にした。「学び方ガイド(1)」をよく読んでいなかったようで、授業ではすぐに資料を見つけずに、まずそれを読むことから始めた。ガイド内の「教科書をていねいに見直そう。」という箇所に着目し、教科書を読み出した。そして、教科書から「工場数と働く人数の割合」「一人あたりの生産額」という資料を選択した。さらに、同テーマの友人と発表し合ったことで、資料集から「工場の規模別の労働時間」と「規模別の一か月の賃金」という資料を選択した。資料のコピーをワークシート上に貼り付けた後、四つの資料から「大工場よりも中小工場の方が数が、だんぜん多い。」等の合計八つの事象を読み取った。資料２のチェックカードから、Ｂ男自身が交流をもったことで、資料から読み取れたことが増えて良かったと思っていることが分かる。

これらのことから、自分の新聞テーマにかかわる複数の資料を収集し、ワークシート上に整理し、そこから自分で読み取ったことを同テーマのグループ内で発表する活動を取りれたことは、他の子供の意見を参考に自分の読み取ったことを理解する力を育てることに有効であったと考える。

２　新聞記事内に表す自分の意見として、各資料から読み取り、理解したことからさらに「どんなことが考えられるのか」といったことを分析するために、資料から読み取ったことをまとめた複数のワークシートを貼り付けた台紙上で、各資料の内容を比較・吟味・整理するという活動を取り入れたことは、社会的事象から自分の意見を考えるために有効であったか

一度目の発表後、用意された資料をワークシートに添付し、読み取ったことを整理し直した。次に、清書されたワークシートを用意された台紙の上部に貼り、横一線に並べることで比較して見やすくした。「学び方ガイド(2)」をもとに、資料から読み取ったことで、共通している部分と、一つの資料だけから言える部分を分析し、蛍光ペンで色分けをした。色分けできたら、「学び方ガイド(3)」を利用し、大きな付箋に共通の部分と資料独自の部分を整理して一つの文章にまとめた。付箋を台紙に貼った後、その共通部分や独自の部分から、「なぜそう言えるようになったのか」「なぜ、こういった変化が起きたのか」といった理由を推測し、頭の中で思い付いたことを、台紙の上に直接書き込み、さらに浮かんだ考えを矢印を使って書き足していくようにした。ただし、ここでは子供に活動がイメージしやすいよう、教師自身が仮の課題を設定し、台紙上でいかに思考したかの模範の発表をしてみせた。子供は最初の 5 分ぐらいは戸惑い、ワークシートに下線を引いてあったとはいえ、それを一つの文章にまとめることには、自信がもてないようで、何度も書いては消すという行動をとる子供が多かった。何人かの子供が教師に質問し、それに対するやりとりを聞いているうちに、自分なり

資料３　A子の台紙の一部



に文章として共通点をまとめ、台紙に貼られる付箋が増え、多くの矢印や自分で推測したことが台紙上に書けるようになっていった。

Ａ子は選んだ資料から、四つの共通部分と二つの資料独自の部分に丁寧に下線を引いた。その台紙の一部を資料３としてまとめて掲載する。A 子はその下線を引いた内容を付箋に文章でまとめ、そこから自分の考えを矢印でつなげ、書き足していった。その結果、Ａ子が推測し、台紙上にまとめた考えは以下の通りである。

《●付箋にまとめた共通・独自の部分→考えた自分の意見→さらに考えた自分の意見》

●重化学工業の生産額の割合や働く人の割合は、１９９８年まで増えていた。→農業よりも工業の方が収入が多く、また安定しているので農業よりも工業の方が好まれた。工業（重化学工業）で働く人も増えた。→農業の製品よりも工業製品の方が高く売れる。
●機械工業での生産額と働く人の数は増え続けている。→自動車やコンピューターなどの機械製品が、家庭の中でたくさん使われるようになったので、たくさん作るために、働く人を増やす必要があった。
●日本のせんい工業の生産額は減り､そこで働く人の割合も減ってしまった。→中国などの安い製品が、日本に入ってきた。→安い賃金で作られているため、せんい製品などは中国等で作られた物の方が日本のものよりも安い。
●日本の働く人の数が、全体的に減ってきている。→日本が不況になり、会社にお金がまわらなくなってしまって、社員にあまり賃金が払えなくなってしまったため、働く人の数が減ってきた。
●日本は、海岸を埋め立てるなどして、様々な土地利用を工夫してきた。→海岸や湖をそのままにしておくより、工業用地として利用した方がもうかると考えた人がいた。少ない平地も田や畑よりは、工業用地にした方が良い。

このように、Ａ子は非常に多くの考えをもつことができた。また、それらはこちらが考えてほしいと予想したものと一致するところが多かった。

資料４　Ｂ男の台紙の一部

Ｂ男は、四つの資料から、なかなか共通する部分が何であるか判断できなかった。「学び方ガイド(3)」をもう一度読んで、何度か教師に、自信なさそうに「ここですか。」と尋ねてきた。そこで、「その中の２つの資料に共通して出てくるキーワードは何だろうか。」「自分の新聞のテーマをもう一度考えてみよう。」と助言をした。そこでＢ男は「大工場」「中小工場」という言葉に気づくことができた。そして、４つの資料から共通して言えることを二つの黄色い付箋に、「大工場の方が賃金は高い。」「昔は、大工場の方が働く時間は少なかった。」等とまとめ、本来こちらが意図していないことについてまで、付箋に記入してしまった。その付箋が貼られた台紙を、資料４として掲載する。しかし、それはＢ男本人が吟味した結果なので否定はせず、むしろＢ男なりに考えを整理できたととらえる。Ｂ男はチェックカードに、「自分で考えて、自分でまとめて、人の力をかりずにできた。」と感想を書いていており、満足していることがうかがえた。

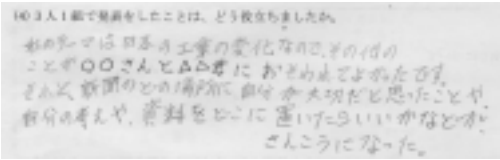
以上のことから、新聞記事内に表す自分の意見として各資料から読み取り、理解したことからさらに「どんなことが考えられるのか。」といったことを分析するために、資料から読み取ったことをまとめた複数のワークシートを貼り付けた台紙上で、各資料の内容を比較・吟味・整理するという活動を取り入れたことは、社会的事象から自分の意見を考えることに有効であったと考える。

３　資料から読み取ったことと自分の考えを載せた仮の新聞を、新聞の異テーマごとに発表する活動を取り入れたことは、記事の内容が他の子供に伝わりやすい新聞作りを工夫しながら、社会的事象を関連付けて追究する子供を育てるために有効であったか

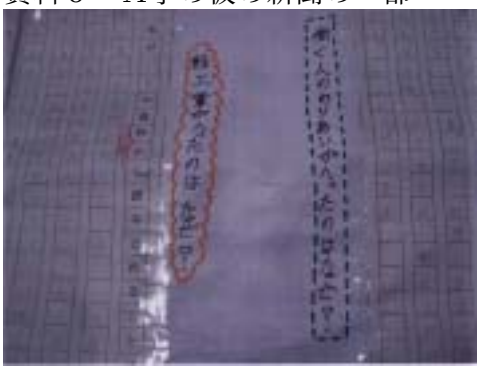
新聞の下書きができたものから、用意した紙に資料と記事の配置を考え、それを貼り、見出しと新聞名を考えて仮の新聞を完成した。新聞ができたものから異テーマの３人１組で、発表するグループを決め、発表用の簡単な原稿書きをしてから発表した。発表の終わった者から新聞の清書に取りかかり、さらに文章上の細かい記述や紙面構成を再び考えて、新聞を完成し

た。その後、本単元のまとめとして、自分の調べた新聞の内容だけでなく、他の子供の内容も確認するワークシートに取り組み、単元全体の知識の定着が確実なものとなるようにした。

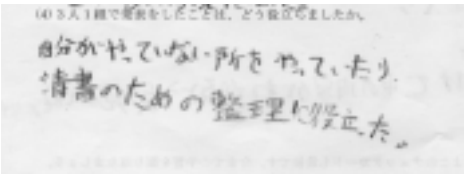
資料５　A子のチェックカード



資料６　A子の仮の新聞の一部



資料７　B男のチェックカード



A子は、クラスで１番情報量の多い仮の新聞を作成した。その中から、特に伝えたいことを抜粋して発表用の原稿を作り、発表をした。資料５のA子の感想からも分かるように、他の新聞テーマの者と知識の交流ができその後の清書での紙面構成の参考になったということが分かる。また、A子は資料６のように、自分で考え、仮の新聞上に「働く人のわりあいがへったのはなぜ？」「軽工業がへったのはなぜ？」等の枠の色も工夫した小見出しを記事の近くに付けることができた。発表を意識し、グループの友達によりわかりやすく伝えようとするA子の思いが形となり、表れたと考えられる。また、資料からの事象を関連付けて追究した結果、A 子自身が読み取ったことと推測した考えが、「なぜ」という疑問に対する答えとして記事の中に書き表せているからこそ、このような小見出しを自発的に作れたのだと考える。

B男もA子と同じように、最後の発表をするために原稿を作った。資料７のように、発表を通して「清書のための整理に役だった。」「自分で調べていないところの内容が知れた。」という感想がチェックカードに書いてあったので、他テーマとの知識の交流は図れたと考える。A子のように仮の新聞上に、小見出しを付けるということまでは思いつかず、資料四つと、文字だけの仮の新聞であった。しかし、新聞の清書の段階では、仮の新聞よりも字を丁寧にし、他の子供の新聞を参考にして、小見出しをつけるなど、紙面構成に工夫も加えたので、B男にとっても、この発表を取り入れたことは大切なことであったと思う。

以上から、資料から読み取ったことと自分の考えを載せた仮の新聞を、新聞の異テーマごとに発表する活動を取り入れたことは、記事の内容を他の子供に伝えやすい新聞作りに取り組みながら、社会的事象を関連付けて追究する子供を育てることに有効であったと考える。

Ⅶ　研究のまとめと今後の課題

○　新聞作りを行ったことで、子供たちは選んだ資料の内容を丸写しにするのではなく、読み取った事象から、自分の考えを整理することの重要性を感じ取りながら、複数の社会的事象を関連付けて追求した内容を表現することができた。

　また、子供たち自身の考えを整理するためには、発表をしながら他の子供と意見交換をする活動、台紙の上で自分の考えを追求する活動など、資料を効果的に利用する場や機会を教師が意図的に設定することが、改めて大切だということが分かった。

○　付箋や台紙上に資料の共通部分やその共通部分から言えること等をまとめることに時間がかかり、見出しやレイアウトづくりに十分な時間をかけられない子供が出てきてしまった。普段の授業から、考えたことをまとめる活動を重視することと、決められた時間内で確実に作業をすすめめるための指導の必要性を感じた。